

今までにない、みんなで「楽」しい。リハビリテーション・トレーニングツール

TANO が ^わ 輪 を広げていく。

遊

障がい者と健常者と
高齢者がともに遊ぶ

とある福祉イベントでの出来事。小学生が高齢者を呼び、操作方法を教えています。子どもが見知らぬ高齢者を連れてきて「**教えて**

あげるから一緒に遊ぼう」

とTANOならではのコミュニケーションが生まれます。



動

飽きずに体を動かせる
リハビリテーションを

TANOプログラムの魅力は自然と無理なく体を動かす事。目的に応じて腕・肩・足など部位別に体を動かす工夫がされています。得点制が体験者のやる気につながっています。「**いい**

点数ですよ」「**次はもっと**

がんばろう」そんな声

が聞こえます。



創造 できる だから 楽しい

TANOはセンサーの前に立つだけで、体の動きや音声に反応して直感的に楽しめるソフトウェアです。誰でも簡単に楽しめるからこそ、声を出して体験する楽しさ、体を動かす楽しさを体感できます。

TANOを自由に使い、皆で笑い合える新しいコミュニケーションツールを創造してみてください。

楽

理学療法を取り入れた
楽しく効果的なトレーニング

TANOプログラムをより効果的に役立てるため、現場の声にとことん耳を傾けました。介護保険施設でTANOを利用して頂き、理学療法

の専門家と共に関心などを測定・調査を実施し、使いやすさなど何度も改良を加えました。



笑

皆で笑い合える
コミュニケーションの場に

TANOプログラムは「ただ一通りのプログラムを順番に体験していくというだけではありません。

工夫しながら協力していくうちに

「もう少し!」「がんばれ!」

といった声かけが生まれ、自然と笑顔のコミュニケーションが広がっていきます。



監修者の声



常葉大学 保健医療学部
理学療法学科

小貫 陸巳 准教授

このような仮想現実ゲームは、これから生体センシング技術がさらに良くなることで無限の可能性のある分野です。これからの介護予防に欠かせない運動機器・プログラムとなっていくことでしょう。



通所介護・介護予防
フィジールーム 見附町

理学療法士

田中 一秀 様

リハビリテーションにおいて、心身機能の向上は必須でもあります。直感で操作できることも自由度が高く、健康維持、自主トレーニングなど幅広く活用することが出来ます。

TANOの利用者さまや介護施設さまから様々な喜びの声をいただいております。

お客様の声

voice

普段より多い運動量。

T様 要介護3
脳卒中片麻痺

一生懸命運動したいけど単調な運動がリハビリテーションには多いから飽きが出ちゃうことはあるよね。でも、このシステムを使うと集中して行えるから普段の運動量よりも多いんじゃないかな？



場所を意識して動かす。

S様 要介護2
脳卒中片麻痺

リハビリテーションは体の機能回復と思っていました。TANOはなににつながるかわからないこともあったけど、制約をつけてもらって意識する場所を教えてもらったら、いつもやっていることと同じだということが分かったわ。



苦手なところを再確認。

M様 要介護2
パーキンソン病

体が固くなって思うように動けない事が多い。TANOは自分の苦手なところを再認識できるのがいいね。少し子供向けとも思うけど、目的意識を持って行えばしっかり使えるよ。

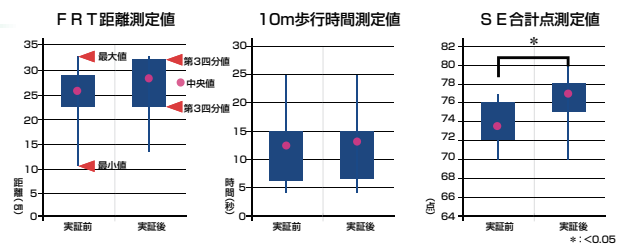


臨床実験でも効果を実証されています。

高齢者の未病対策に活用できるレクリエーションシステム

実証実験の前後で、自己効力感において、各被験者に明らかな変化が現れた。運動療法における課題は同じ動作の反復練習が基本であるが、本システムを使用することで楽しみながら同様の動きを促通できた。また、被験者の心理的負担が軽減されるとともに、集中力から潜在的な能力を引き出すこともあり、普段同じような動作を1～2分程度の持続しかできない被験者が、数分間にわたって取り組めるようになった。

■検証結果グラフ



公募型「ロボット実証実験支援事業」より

voice

今までバランスの悪いと言われてもまいちイメージがつかなかったが、TANOを使うとバランスの悪さを実感できるから、次に繋げることができた。

voice

日頃は麻痺側は痛いので動かさないようにしていたが、この画面の範囲なら、頑張ってみようと思え、手で支えるなど工夫して使った。

voice

プログラムは結構きついが、画面が楽しいし、得点ですぐに前回の自分との結果比較ができるので、痛みを忘れて夢中になって体験できる。

「運動」と意識しなくても、知らず知らずに体が動く。夢中になれる。

voice

「運動」とは、辛く孤独なものだと思っていたが、楽しんでいいのだと発想転換できたソフトウェアだ。

voice

プログラムをこなすと疲れるが、心地よい疲労。デイサービスの日の夜は、ぐっすり良眠できるようになった。

voice

「運動」と気張らずとも、知らず知らずのうちに体が動く。



理学療法士
木村 佳晶 様

お互いに刺激しあって集中して取り組める。

デイサービスの利用者さんと利用しています。それぞれの利用者さんが好きなメニューがあるようで、「釣り」ではお互いが刺激しあって集中して取り組んでいます。立位での動的バランス能力が向上し、生活場面で洗濯物が干せるようになったというような効果も聞いています。操作に関しては、当初不慣れな点もありましたが、次第に慣れてきて、今では各々で自主的にできるようになりました。